

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学 校 経 営 中 期 取 組 目 標
①子ども一人ひとりが安心して、自分らしさを発揮し、互いを認め合う学校をつくります。 ②子どもの主体性を引き出し、自分で学習や生活をつくり高めていく子を育てます。 ③教職員の指導力を高め、チームとして子どもたちを育てます。 ④学校運営協議会を基盤として、学校・保護者・地域が連携し、信頼関係に基づいた開かれた学校をつくります。

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取 組 目 標	具 体 的 取 組
確かな学力 (学習指導) 担当 学力向上部	- 子どもたちの主体的・協働的な学習を追究し、学習意欲・思考力を育てます。 - どの学力層にも応じた指導の在り方を考えます。	① 学状調査等のデータをもとにした児童の経年変化をもとに具体的手立てを講じる。 ② 子どもが自らの課題をもち、調べまとめる学習(読解力)、グループ学習や子どもによる授業進行等を通して、主体的・協働的な学習を追究する。 ③ 主体的に思考を深める学習課題の設定や発問、思考力育成のための思考操作等に重点を置き、どの学力層にも応じた指導の手立てを講じていく。

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

平成28年度

平成27年度

(1) 学力の概要と要因の分析

学校全体では、ほぼすべての学年においてすべての教科が横浜市の平均的な学力よりも上回っている。ほぼどの学年でも、学力層Aの子どもが各教科3～4割いる一方で、学力層Dの児童も1～2割ほどいて、学力差が大きいと言える。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：話す・聞く能力の伸びが著しいが、読む力や記述力については課題である。
- 算数科：知識理解や技能については定着しつつあるが、考え方の向上が課題である。
- 社会科：思考・判断・表現は伸びているが、知識理解の定着については課題である。
- 理 科：どの学年も概ね前年度と同様の結果であった。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

経年変化の状況から、今後一層、自分の考えを表現・交流し、友達と学び課題解決をする授業づくりを行う必要があることが明らかである。表現・交流する際には、課題に対する考えを、子ども一人ひとりが明確にもつように指導を進めるとともに、家庭学習等も絡めて知識の定着も図りたい。

3 平成 29 年度 学年・教科等としての具体的取組

1 学年

- 国語科では、自らテキストにふれる活動を通して、想像力を広げながら自分の思いを伝えられるようにする。主語・述語の簡単な文を作って楽しむようにする。
- 算数科では、具体物を用いた活動を通して、数・量の大きさ、図形についての感覚を豊かにする。

2 学年

- 国語の話す・聞く能力が定着しており、子ども主体の授業の成果が出つつある。
- 算数は概ね市平均であるが、C層の子どもが多く、九九など基本の定着を図りたい。
- 学習意識・生活意識ともに低く、学習が何の役に立っているかを意識させたい。

3 学年

- 国語科では、必要なテキストを集めて読み込み、わかったことを文章に表すようにする。
- 算数科では、少人数指導を実施し、基礎学力の定着を図る。また、具体的な操作から言葉や図、式などによって自分の考えを明らかにし、説明する活動を多く取り入れる。
- 理科では、体験活動を多く取り入れ、自然の事物現象に興味をもって、その特性を生活に生かせるようにする。

4 学年

- 自分の考えをよく発表している児童に偏りが見られるため、グループや全体で話す機会をどの教科領域においても大切にしていく。
- 社会科では図書館での調べ学習に加えて、体験や取材の学習で知識の定着をはかる。

5 学年

- 国語・算数の学習は学力が定着している。特に算数は、少人数クラスできめ細かい指導を続ける。
- 理科・社会は、子どもの思いを大切に、できるだけ身近な、子どもの生活圏内の中で教材を見つけたり、地域の人との関わりをもったりすることで、学習の活用能力を高めたい。
- 図工と音楽の2科目において、学習意識を上げるための資料等を用意して、作品に込めたい思いを考え友だちと伝え合い、イメージを広げられるようにする。

6 学年

- 国語科では、言語活動や相手意識を大切にしながら、既習事項を活用して自分の考えを適切に表現できるようにする。
- 算数科では、基礎学力の定着を図ったり自分の考えを言葉や図式を使って説明できるようにしたりする。
- 社会科では、基礎学力の定着を図ったり、自らもった課題を様々なテキストを活用して調べ、まとめたりする。
- 理科では、既知や未知を確認し、資料収集や実験などから自己の課題を解決できるようにする。

個別支援学級

- 自立（朝の会）で話す内容を事前に準備しておき、みんなの前で話の内容が伝わるように話すことができる。
- 子ども司会を通して、友達の意見や考えを聞き合い、同意したり共感したりしたことを可視化（文字化・絵図化）し、考えを確かなものにすることができる。
- 個々の課題を明確にし、学習形態やツールを工夫して、自分ができる方法で解決することができる。

音楽

- 子どもたちが意欲的に学習に取り組むように、基本的な記譜・読譜ができるようにしたり、選曲の工夫をしたりする。
- 音楽を通して子どもたちが心を開放できるように、リズム遊びなど、遊びから自然と学習に取り組むことができるようにする。

算数少人数

- 低学年では、問題を正しく把握し、具体物やテープ図を用いた活動から、数・量の大きさ、図形についての感覚を豊かにする。
- 中学年以上では少人数指導を実施し、基礎学力の定着を図る。演算決定の根拠となる数直線や、テープ図、線分図の活用を積極的に行い、自分の考えを説明したり、友達と高め合ったりすることができるようにする。